

最終講義

2019.2.21(木)13:30-15:00

教育学部大講義室

教育、テクノロジー、質的研究方法論

名古屋大学

教育発達科学研究科(GSEHD) 教授

アジア共創教育研究機構(ASSIA) 教授

教育発達科学研究科附属高大接続研究センター(CHET) センター長

大谷 尚

ぼくがこんなふうに、B-612 番の星の話をして、その番号までもち出すというのも、じつは、おとなの人たちがよくないからです。おとなというものは、数字がすきです。新しくできた友だちの話をするとき、おとなの人は、かんじんかなめのことはききません。「どんな声の人？」とか、「どんな遊びがすき？」とか、「チョウの採集をする人？」とかいうようなことは、てんできかずに、「その人、いくつ？」とか、「きょうだいは、なん人いますか」とか、「目方はどのくらい？」とか、「おとうさんは、どのくらいお金をとっていますか」とかいうようなことを、きくのです。そして、やっと、どんな人か、わかったつもりになるのです。

(中略)

だけれど、ぼくたちには、ものそのもの、ことそのことが、たいせつですから、もちろん、番号なんか、どうでもいいのです。

サン＝テグジュペリ作 内藤 濯 訳
「星の王子さま」より

紀要退職記念論文

大谷の研究的生活ストーリー

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

「目黒の学習院」と呼ばれた名門公立小学校



<http://itot.jp/13110/1118> 2019/3/15

- 「目黒区立緑が丘小学校」
- 栄転につぐ栄転の結果着任する鼻の高い先生
- 自分の「可搬性のある（ポータブルな）教え方」「見栄えのする教え方」を、眼の前の子どもとは無関係に持って来る。
- それは「保護者を平伏させる教え方」でもある。
- それが通用しない子は親を呼んで叱る。

小学校時代

- そのときにも「これはおかしい、大人になるまで絶対に覚えておくんだ！」と感じたことが多い。
- ただしその個々のことは覚えていない。
- しかしその時の理不尽な気持ちと、大人になるまで覚えておくんだ！と思った気持ちは未だに覚えている。
- しかも、あとで、「え？そうだったの！」となることが多い。
- つまり、自分が教えられたことが間違いであると気づき「私の少年時代を返して！」となる場合もあった。

小学校3年時の白い絵の具の話

- 水彩絵の具の最初の日
 - いろいろな色に白を少し入れて、どうなるか発表させる
 - 児童：「青が水色になります！」 「赤がピンクになります！」
 - 教師：違います。
 - 児童は最後までわからない。
 - 授業の最後に
 - 教師：「白を少し入れると画用紙の「地」が見えなくなる。だからどんなときも少しだけ白を入れなくてはならない。そのために白の絵の具は大きい。」
- だましうちのような結論
 - 子どもに答えを「探させる」が「見つけさせる」つもりがない。
 - 子どもが答えを見つけたら、教師の権威が保てない。
 - 教師の意図
 - 子どもに「自分では、いくら答えを探しても見つけられないんだ」と分からせたい。
 - 児童の気持ち
 - それなら最初から「白はほんの少しだけ」と言えばいいじゃないか？ 「これはどこがおかしい」「理不尽だ」と分かる。

ところが神奈川に転居した後

- 絵を習いにいった。
 - 当時 27倍の倍率の東京芸大油画科卒の先生
- 白を入れたら
 - 先生：どうしていつも白を入れるの？
 - 尚君：小学校で習ったからです。
 - 先生：学校はなんてひどいことを教える！水彩はこの透明感が命なのに、そんなことをしたら透明感がなくなる。もう水彩じゃなくなってしまう！
 - 尚君：私の少年時代を返して！ これまで描いてきたたくさんの絵を返して！

高校時代

- 新設私立校でさまざまな経験をする
 - 使われない教室テクノロジーにも触れる
- 教育というものに対してさらにいろいろ疑問を持つようになり、大学で教育を勉強したいと考える。
- 和田守先生
 - 君は教育について考えたいのか、教育学をやりたいのかどちらですか？
- 大谷少年
 - その2つは違うのですか？
- 和田守先生
 - 違うのです。前者なら教育学科にいかない方がいいと思います。
- 大谷少年はその意味が分からず教育学科に進学
- しかし入学後程なくしてその意味が分かり、教育学にはあまり興味を持たなくなる



紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

学部生時代

- 1972 東京教育大学教育学部教育学科
教育学専攻
 - ブルーバックス「教育工学入門—プログラム教育とティーチング・マシン (1969年)」に出会う
 - 教育工学の沼野一男先生 (玉川大学), 藤田廣一先生 (慶応大学) の非常勤の授業に出席
 - オーケストラばかりやっていた
 - 自大学ばかりか他大学 (中央大学) にも training conductor として棒を振りに行っていた
 - 卒論は小野慶太郎先生のご指導で斉藤秀雄の「指揮法教程」



紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

大学院生時代

- 1976 筑波大学大学院 博士課程教育学研究科(5年一貫性)
 - 教育内容論の小野慶太郎先生に師事
 - 他に類を見ない研究指導
 - 1・2年次でハインリッヒ・ペスタロッチの「直観」
 - 3年次でマルティン・ハイデッガーの哲学
 - 3年次後半に中山和彦先生の学術情報処理センターにわらじを脱いで研修
 - 大型計算機TOSBAC5600-160E, パンチカード, FORTRAN
 - このセンターは学術情報データベースセンターでもあり, ERIC データベースを用いたBibliometrics (計量書誌学)
 - 後のコンピュータを用いた授業逐語記録の研究に発展?
 - 竹園東小学校のクラスルームCAI

筑波大学学術情報処理センターの地下 のマシナールームにあった TOSBAC 5600/160Eと同機種



紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

長崎大学時代に私が出会った コンピュータたち

① 長崎大学教育学部附属教育工学センター
に設置されていた。TOSBAC40C1台、
TOSBAC 40A2台

長崎大学と離島や僻地とを結んで学習反応データの収集、解析、結果の返送を行う NIGHT (Nagasaki, Iki, Goto, Hirado, Tsushima) システムで使用。着任時はNIGHTシステムの研究は終わっていたが、当時、長崎大学のどのコンピュータより高性能で、大学の全教職員の給与計算も行っていた。

筐体正面に見えるのは、16進数で入力するピアノスイッチ。だから大谷はいまだに指で2進数で数えられる。





② 算数の教材などを作って生月（いきつき）島に持っていき，小学生に使ってもらった Commodore PET2001

https://ja.wikipedia.org/wiki/PET_2001 2019/07/08



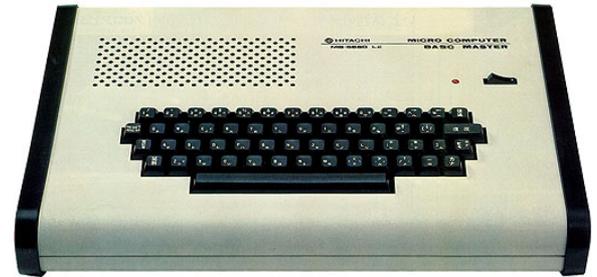
④ 出す音を周波数で定義できるので，純正律，中間音整律（ベルクマイイスター）平均律，などの聴き分を体験するシステムを開発した Texas Instruments TI/99/4

<http://www.classiccmp.org/dunfield/ti/h/front.jpg> 2019/3/15



③ 音楽家教員のための読譜指導のための Computer Managed Instruction システムを作った 沖 if800

<http://museum.ipsj.or.jp/computer/personal/0005.html> 2019/3/15



③ 出す音を音名と長さで入力できるので，音楽的（人間的）な演奏をするにはどれほど「楽譜通り」ではいけないかを実験して音楽家教員に聴かせて感心させていた日立ベーシックマスターLevel2

<http://www.old-computers.com/museum/photos.asp?t=1&c=1&st=1> 2019/07/08



⑥ 授業逐語記録を入力してそれを分析するシステムを開発した NEC N5200

<http://www.classiccmp.org/dunfield/nec/index.htm> 2019/3/15



⑤ 統計的検定や学生の情報処理教育などあらゆることに使った NEC PC-9801

<https://www.theoldcomputer.com/roms/index.php?folder=NEC/PC-9801> 2019/3/15

八田昭平先生（本学 教育方法講座出身）の 指導で附属学校の 授業を数多く観た

- その時に小学校時代のトラウマがフラッシュバックするような体験もする。
- それを論文に。

1984年の問題作！

45

虚構の教材に関する一考察

—虚構の録音教材をめぐる—

大 谷 尚

A Consideration of Fabricated Teaching Materials :
Through Unauthentic Recordings as Teaching Materials

Takashi OTANI

1. 序

筆者がこれまでに接した授業の中に、授業者が行ったインタビューの録音を、教材として使った授業がある。しかしこれらの録音教材のほとんど全てが、実際には教師や教育実習生がインタビューの相手役をつとめて録音したものであるにもかかわらず、それを「農家の人にインタビューして来ました」とか、「工場の人にインタビューして来ました」と言って、本当のインタビューの録音として、子どもたちに聴かせるものであった。つまりそれらは「虚構の録音」である。そしてここではそのような教材を、「虚構の教材」と呼ぶことにする。

小論ではまず、このような教材を使った授業の例を、それに対する子どもたちの反応も含めて示す。さらにそれが使われる背景をおさえた上で、いくつかの観点から、このような教材を批判的に検討する。小論は、そのことを通して、学習の過程における教材の位置付けを、筆者なりに再考することをねらいとするものである。

Ⅰ. 虚構の教材を使った授業の例

まず初めに、このような教材を使った授業の具体例をあげる。以下の例は、いずれも小学校の社会科の授業におけるものである。なお、授業についての説明は、それぞれの授業の学習指導案と、VTRによる記録をもとにした。（以下、〈〉で囲んだ部分は、指導案からの引用である。）

第1例は2年生の授業で、学習指導のねらいは、〈田植えが機械化されて来たのは、仕事が楽で、はやいという理由だけではなく、田植えの時期というものが限られているからなのだということを分らせる〉と設定されている。授業過程では、〈なぜ現在の田植えで機械を使っているのかを考え〉させ、子どもから出る意見として、〈仕事がはやい・仕事が楽だ〉を予想し、その後で、〈農家の人へのインタビューのテープをきいて確かめさ

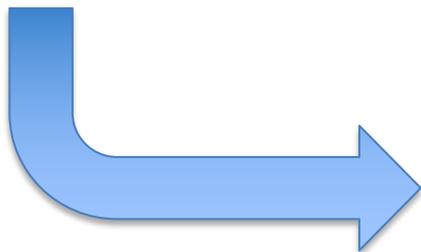
センターの関係で 教育学より教育工学の世界で活動

- 教育学部の教育学の先生方を10年間、教育工学センター（後に教育実践研究指導センター）という「外」から眺めていた。
- 教育学者たちの何名かは元学生運動活動家であり、声が大きく、90人の教授会構成員が誰も論破できない。
 - だからその人達の主張の通りに決まる。
 - しかし誰もそれが良いとは思っていないため、「教育学者」と、その坊主が着ている袈裟である「教育学」を誰も信用していなかった。

しかし教育工学に対する疑問も

- 研究のための研究
 - requirement pull ではなく technology push
 - 仮説検証研究でないと認めない雰囲気 → 後述
 - 莫大なコストをかけた巨大システムのあっけない終了
 - その残滓の撤去
- 捕らぬ狸の皮算用理論（工学主義的誤謬）
- ただ、後から来る人を両手を広げて迎え入れ、多様な背景で区別や差別をせず、オープンな議論をし、若い人を肯定的に励ます、支持的・受容的、協調的な文化は教育学には無いもの

NIGHTシステムの残滓の撤去の経験 壁の蔦を取り除いた後のような感じ



教育工学における 捕らぬ狸の皮算用理論 (工学主義的誤謬)



<https://publicdomainq.net/baby-raccoon-animal-0012216/> 2019/9/24

- CAI(Computer Assisted Instruction)の教材（プログラム）は開発に大変な時間がかかるが，出来た教材を多数の学校で利用すれば，時間はあまり係らなかつたことになる。
- じっさいには，日本の教師の授業は非常に個人的で，他人の作った教材はほとんど使えない。
 - 教科書会社が提供する教材が学校ではほぼ例外なくガラス戸棚にしまわれているのがそのエビデンス

教育工学における 捕らぬ狸の皮算用理論 (工学主義的誤謬)



<https://publicdomainq.net/baby-raccoon-animal-0012216/> 2019/9/24

- コンピュータが教師と子どもの中に介在すると人間的な教育ができなくなると言う人がいるが、教師はそれによって浮いた時間を子どもとの接触に使えるから人間的な教育ができる。
- じっさいには、コンピュータを導入して時間ができた教師など1人もいない。
 - ガリ版時代とコピー機時代では、後者になって暇になった教師などいない。

だからなんとかして
その<じっさい>を研究したかった

しかし不勉強な私には、
そのアプローチは
見つからなかった。
た . . .



それでも長崎大学時代には

- 1979 長崎大学 教育学部 附属教育工学センター 助手
 - TOSBAC-40を相手に16進のピアノスイッチ, 紙テープ, パンチカード
 - 筑波に7回出張しERIC データベースを用いたBibliometrics (計量書誌学) の論文を執筆
 - 大谷 尚 (1980) 教育学学術文献情報に関する研究 – E R I Cを用いたビブリオグラフィックな調査 – 『長崎大学教育学部教科教育学研究報告』 5. 257-267
 - パソコンは初期には PET2001, PC-8001, Texas Instrument Ti-99, Hitachi Basic Master 等
 - 大谷 尚 (1982) パーソナルコンピュータを用いた音の機能を持つC A Iシステム – 算数モジュール教材の開発 – 『日本教育工学雑誌』 7. 87-97
 - NEC N5200 (PC8801より先に漢字が使えるオフコン系) で授業逐語記録を入力して分析. つまり授業のカテゴリー分析に関心無し. あくまで授業の「内容」に関心あり
 - 大谷 尚・松原伸一 (1984) 出現語の頻度分布にもとづく授業の特徴化について 『電子通信学会教育技術研究報告』 1984. 12. 1-6
 - 大谷 尚 (1985) パーソナルコンピュータによる授業記録分析システムのデータ形式とデータ作成の効率化について 『長崎大学教育学部大学教育方法等改善研究プロジェクト報告書』 181-191
 - 音楽科の教授のお手伝いでOKI if800で音楽科教員のための読譜指導の評価のシステムを開発
 - 大谷尚 (1982) 読譜指導のためのCMIシステムの開発 – 教育情報処理の具体的検討 – 長崎大学教育学部教科教育学研究報告, 5, 223-238
 - 大谷 尚 (1984) パーソナルコンピュータを用いた読譜指導のためのC M Iシステム – 音楽的聴感覚調査とそのフィードバックシステム – 『日本教育工学雑誌』 9. 71-86
- 1986 長崎大学 教育学部 附属教育実践研究指導センター 助手 (センター改組による)
- 1986 長崎大学 教育学部 附属教育実践研究指導センター 講師
 - 大谷 尚・八田昭平 (1987) コンピュータを用いた授業 (逐語) 記録の分析手法の研究 『日本教育工学雑誌』 11.(2/3) 117-131

Dr. John Brine と Dr. E. Marcia Johnson



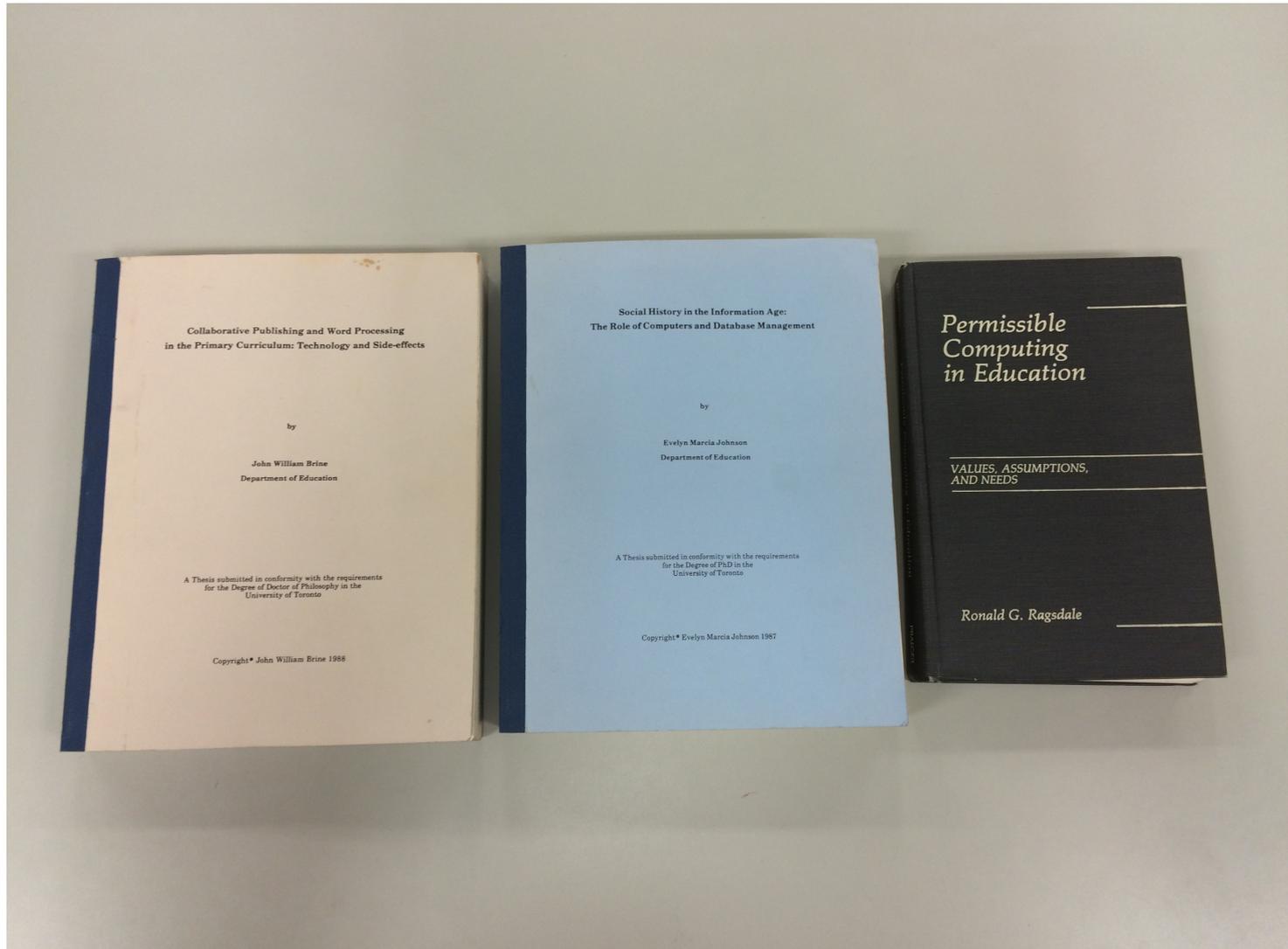
<https://www.u-aizu.ac.jp/research/faculty/detail?cd=90083&lng=en> 2019/3/15



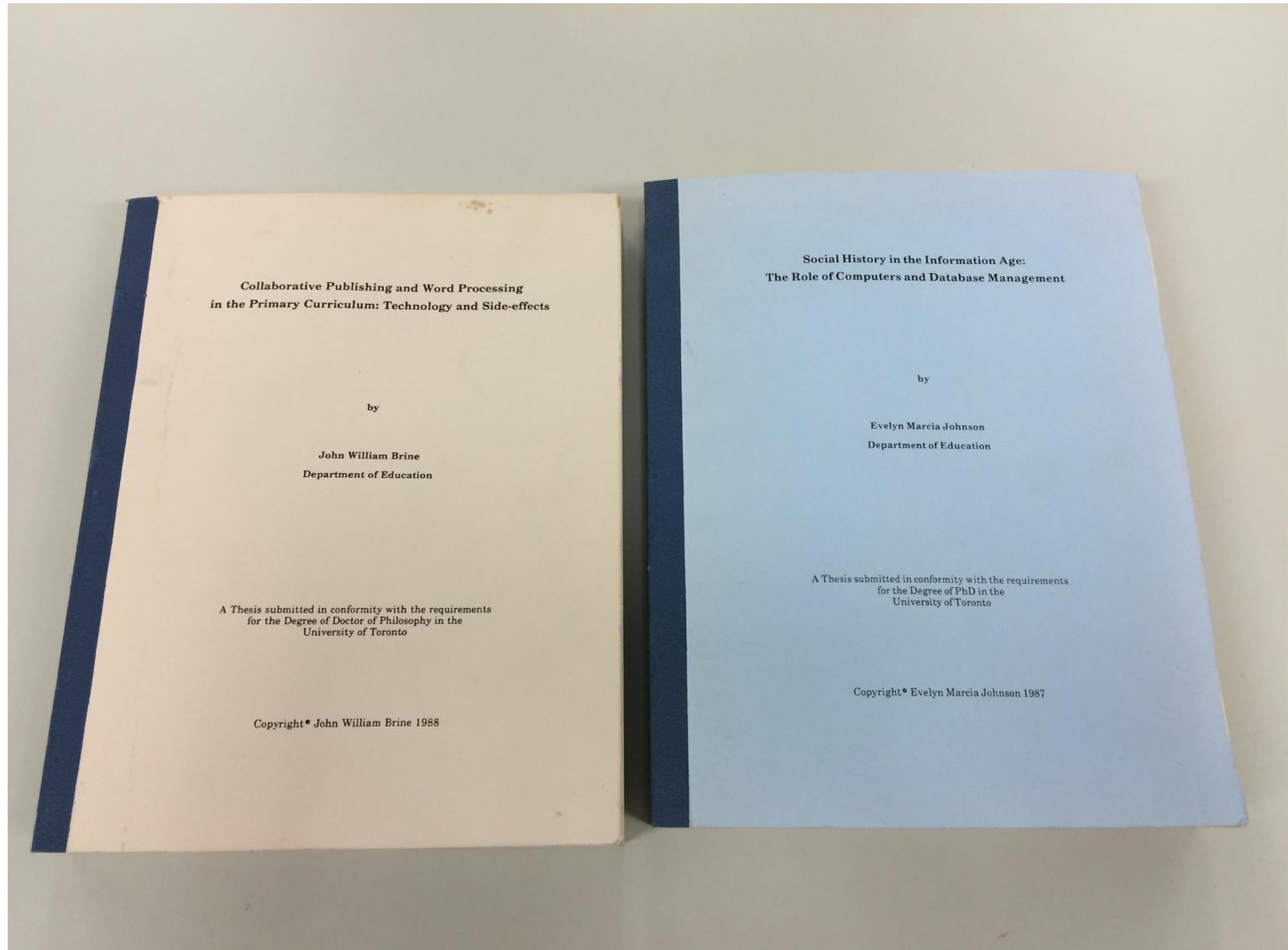
<https://www.waikato.ac.nz/staff-profiles/people/marcia> 2019/3/15

- OISE(The Ontario Institute for Studies in Education/ University of Toronto)から1年間日本(東工大)に滞在したカナダ人研究者夫妻
- John は学部時代の専門が哲学, Marcia は学部時代の専門が歴史学で, OISEでコンピュータの教育利用で PhD を取得 (そういうbackgroundの人はざら)
- 1年後の帰国前(大谷の長崎最後の年)に教育工学センターを訪問し, 長崎に来る.
- John と Marcia
 - 日本にいた1年で初めて, 気持ちの通じる人に出会えた!
- 大谷
 - はじめて, すべてを説明しなくても, 何をやるうとしてるか分かってくれる人たちに出会えた!

John と Marcia の帰国時に 長崎に送ってきたもの



左2冊は John と Marcia の博士論文



*Collaborative Publishing and Word Processing
in the Primary Curriculum: Technology and Side-effects*

by

*John William Brine
Department of Education*

*A Thesis submitted in conformity with the requirements
for the Degree of Doctor of Philosophy in the
University of Toronto*

Copyright © John William Brine 1988

*Social History in the Information Age:
The Role of Computers and Database Management*

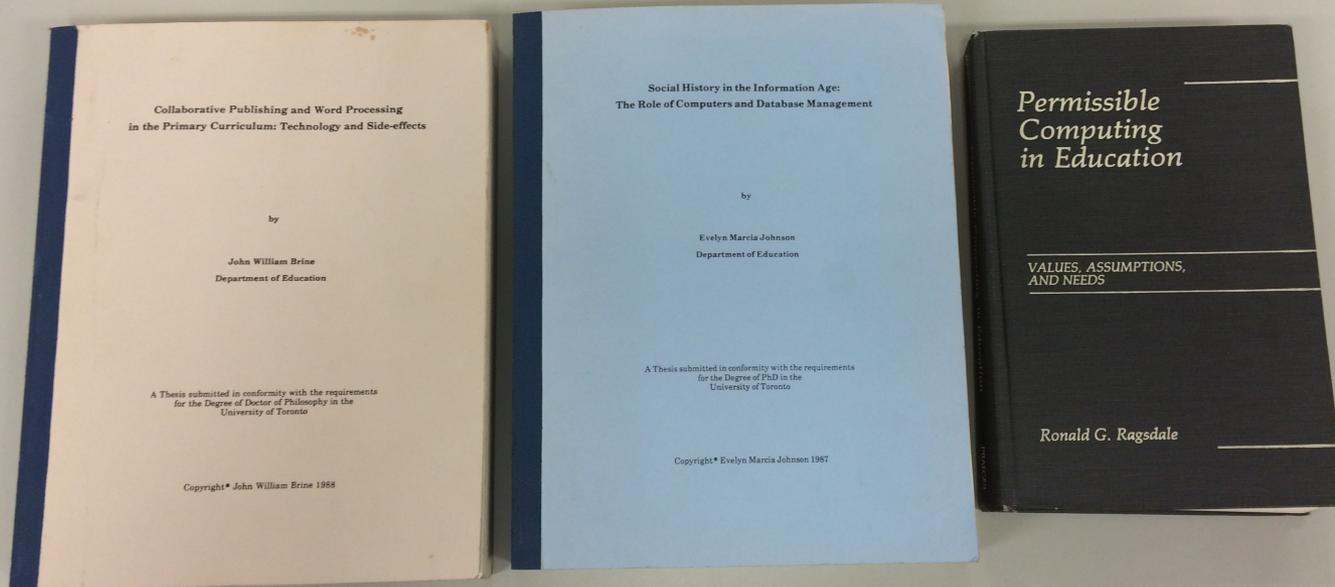
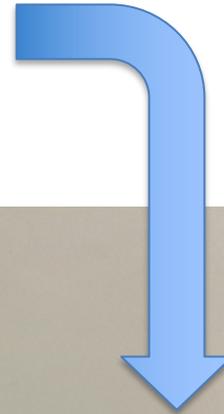
by

*Evelyn Marcia Johnson
Department of Education*

*A Thesis submitted in conformity with the requirements
for the Degree of PhD in the
University of Toronto*

Copyright © Evelyn Marcia Johnson 1987

問題はこれ



Collaborative Publishing and Word Processing
in the Primary Curriculum: Technology and Side-effects

by

John William Brine
Department of Education

A Thesis submitted in conformity with the requirements
for the Degree of Doctor of Philosophy in the
University of Toronto

Copyright* John William Brine 1988

Social History in the Information Age:
The Role of Computers and Database Management

by

Evelyn Marcia Johnson
Department of Education

A Thesis submitted in conformity with the requirements
for the Degree of PhD in the
University of Toronto

Copyright* Evelyn Marcia Johnson 1987

*Permissible
Computing
in Education*

VALUES, ASSUMPTIONS,
AND NEEDS

Ronald G. Ragsdale

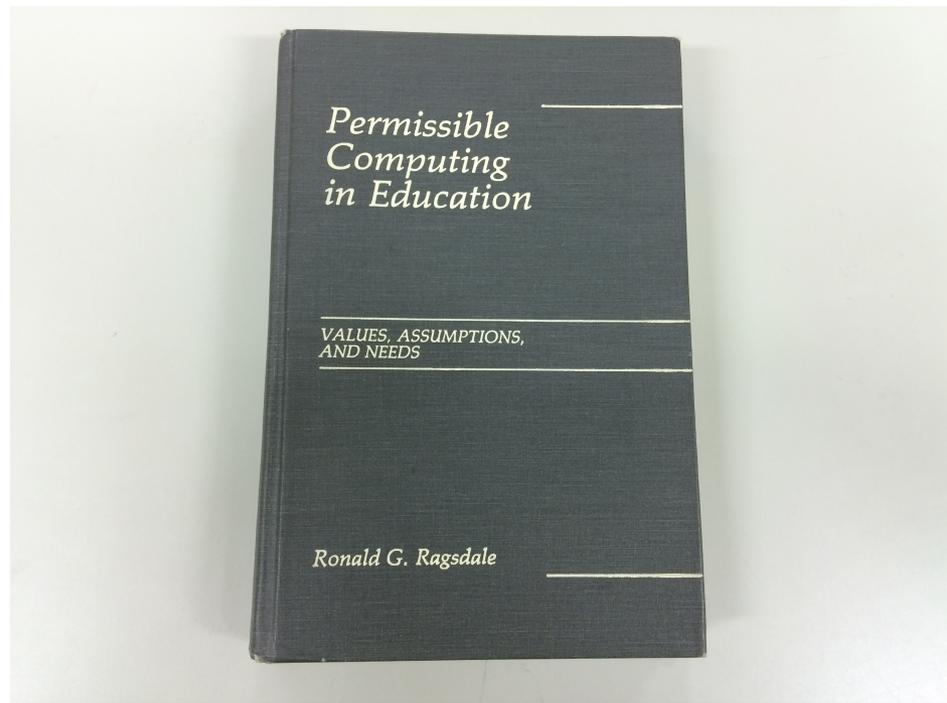
JohnとMarciaの指導教授 R.G.Ragsdaleの本

Permissible Computing in Education:

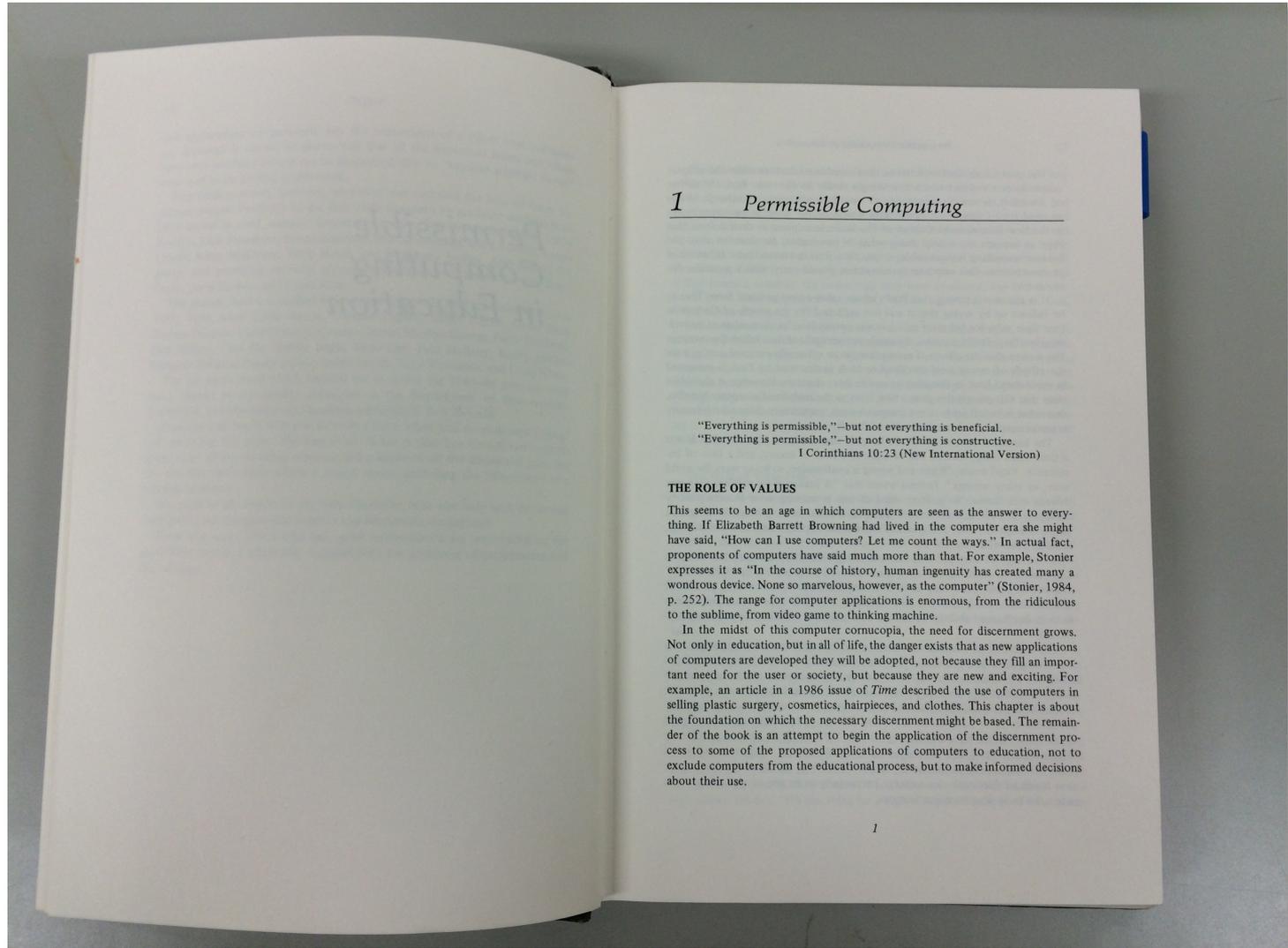
VALUES, ASSUMPTIONS, AND NEEDS

価値観, 前提, そして必要性

図表の一切ないコンピュータの教育利用の本



1 Permissible Computing



すべてのことは許されている。
しかし、すべてのことが益になるわけではない。

すべてのことは許されている。
しかし、すべてのことが人の徳を高めるのではない。

コリントの信徒への手紙一 10-23

“Everything is permissible,”—but not everything is beneficial.

“Everything is permissible,”—but not everything is constructive.

I Corinthians 10:23 (New International Version)

THE ROLE OF VALUES

This seems to be an age in which computers are seen as the answer to every thing. If Elizabeth Barrett Browning had lived in the computer era she might have said, “How can I use computers? Let me count the ways.” In actual fact proponents of computers have said much more than that. For example, Stonier expresses it as “In the course of history, human ingenuity has created many wondrous devices. None so marvelous, however, as the computer” (Stonier, 1984

彼らは大谷を理解しているのだから メッセージは明らか



<https://www.paraemigrantes.com/come-to-canada-wizard-la-pagina-del-ministerio-de-inmigracion-de-canada-737/> 2019/3/15



<https://www.transitionresourceguide.ca/universities/university-of-toronto> 2019/3/15

その年度を最後に名古屋大学に異動

紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

名古屋大学へ

- 1989 名古屋大学 教育学部 教育学科 教育情報学講座（新設講座） 助教授
 - 長崎のときの研究のまとめ
 - 大谷 尚(1989) 授業研究の一手法としての逐語記録に対する計量的な分析について 『名古屋大学教育学部紀要－教育学科－』 36. 327-338
 - テクノロジーの教育利用に関する基礎理論の構築を目指す！
 - 1人講座で上に教授はいないのでなんでも自由にやれた

この頃コンピュータが実際に教室 に入り始める

- 従来の授業研究の方法
 - 教育方法学的なもの
 - 授業逐語記録の分析
 - 教育工学でなされていたもの
 - 教授行動のカテゴリー分析
- コンピュータを用いた授業では
 - 発話がほとんどない → 逐語記録が取れない
 - ほとんど教授行動がない → カテゴリー分析ができない
- どちらも使えない
 - 「逐語記録化という従来のデータ化」が不可能
 - 「教授行動のカテゴリーによる測定」も不可能
- しかし
 - 「コンピュータを導入した教室では、これまで起きていなかった、ありとあらゆることが起きている」（KK教諭）
- じゃあ、どうしたらそれを分析できるのか. .

質的研究というものを知る

- どうも質的研究というものがあるらしい...
- 観察したりインタビューしたりしてその記録を分析するらしい...
 - 観察やインタビューで「観察記録化」「インタビュー記録化」という「データ化」をする
 - それをある程度定式的な手法で分析する
- それ、使えるかも... どころかむしろ、それこそ自分がやりたかったことじゃないか！
- そしてコンピュータの教育利用について質的研究をしているのがトロント大学の Ragsdale 教授だと分かってくる。



トロントへ

- 1991.8.1-1992.7.31 トロント大学客員研究員
 - 国際交流基金 学者等長期派遣
 - 比較国際教育学講座の馬越徹先生のご推薦による
- R. G. Ragsdale教授のコンピュータの教育利用の質的研究のグループで、一緒に観察し、記録し、分析した。
 - 大学院での研究者養成システム・プログラムも間近で見る
 - 日本の教育を1年間外から見る

紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

帰国後

その手法をローカライズして研究

- 大谷 尚(1995)コンピュータを用いた授業を対象とする質的研究の試み『日本教育工学雑誌』18(3/4) 1995 pp189-197
- 大谷 尚(1995)学校教育におけるコンピュータ利用を対象とした質的研究のためのコードワードの機能と特性の検討『名古屋大学教育学部紀要－教育学科－』42(1) 1995
- 大谷 尚(1996)コンピュータは教室に何をもたらすか－コンピュータを用いた授業を対象とした観察研究と分析の必要性－『戦後50年、いま学校を問い直す(教育方法25)』(日本教育方法学会編) 明治図書 1996. 129-139
- 大谷 尚(1996)学校教育におけるコンピュータ利用の特質、問題、課題の解明を目的とする質的観察研究－質的データ分析とその適用－『日本教育工学会第12回大会講演論文集』(課題研究?「教育工学の研究方法論[2]」) 237-238
- 『質的研究法による授業研究－教育学・教育工学・心理学からのアプローチ』(共著:平山満義編) 北大路書房 1997 (担当「教育工学からみた質的授業研究」123-181)
- 大谷 尚(1997)インターネットは学校教育にとってトロイの木馬か－テクノロジーの教育利用と学校文化－『学習評価研究』29. 1997. 42-49
- 大谷 尚(1997)質的観察研究とその知見の一事例－教室における新しいテクノロジーの文化的同化の理論化－『教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集(第一分冊)』(課題研究「教育研究方法論」) 37-40
- 大谷 尚(2001)インターネットの教室利用をさまたげるものは何か－テクノロジー vs. 教授・学習文化－『日本教育工学会第17回大会講演論文集』17-18
- 大谷 尚(2002)教育工学の研究手法としての質的研究手法－Quantity of Learning から Quality of Learning へ－『日本教育工学会第18回大会講演論文集』 pp27-28
- 大谷 尚(2003)「質的研究と科学教育－質的研究は科学教育に何をもたらすか－(日本科学教育学会年会論文集27、2003年7月、pp35-38)

質的研究方法論とその意義の研究も

1. 大谷 尚 (2006) 教育と情報テクノロジーに関する検討 ―ハイデッガーの『技術への問い』をてがかりとして―. 教育学研究. Vo.173. No.2, 別冊 14-28 [CiNii](#)
2. 『質的研究ハンドブック 3巻 質的研究資料の収集と解釈』 N.K.デンジン・Y.S.リンカン編、平山満義監訳、大谷 尚・伊藤 勇 編訳 北大路書房 2006年8月→[次スライド](#)
3. 『質的心理学講座 第1巻』 無藤隆・麻生武編. 2008. 東大出版会. 担当 第9章 ＜学校文化と「神神の微笑モデル」―テクノロジーと教授・学習文化とのコンフリクト―＞. 233-266 →[次々スライド](#)
4. 大谷 尚(2008) 質的研究とは何か--教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして. 教育システム情報学会誌. 25(3) 340-354 [CiNii](#)
5. 『教育工学選書 教育工学とはどんな学問か』 日本教育工学会監修、坂元昂編著、岡本敏雄編著、永野和男 編著、担当＜第3章 近接領域からみた教育工学、3.3 教育学からみた教育工学＞. ミネルヴァ書房 2012 →[次々々スライド](#)

質的研究ハンドブック編訳

Norman K Denzin
*Handbook of
Qualitative Research*
2nd Edition

<https://www.amazon.com/dp/0761915125>

著作権上の理由により、
こちらに挿入されていた表紙
画像を削除しました。



再びトロントへ

- 2005.3.16-2006.3.15 トロント大学で客員研究員
 - 文科省「海外先進教育実践研究支援プログラム」
 - 教師のための大学院プログラムを、西洋の中世からの伝統的専門職である医師、法曹、聖職者養成のための大学院プログラムと比較
 - 大学院での研究者養成システム・プログラムもいっそう間近で見る
 - 最新の質的研究も見る

帰国して

- いっそう質的研究を実施するとともに
- 質的研究方法論qualitative research methodologyの研究を始める
 - 研究方法と研究方法論とは全く違う
 - 研究方法を知っている人は多いが研究方法論を把握している人は希
 - しかし誰も頼れないところで自分が質的研究をしていくには、方法だけでなく方法論を理解する必要があった。

質的心理学講座

著作権上の理由により、
こちらに挿入されていた表紙画像を
削除しました。

『質的心理学講座』全3巻 の表紙

- 第1巻 育ちと学びの生成
 - 9 大谷 尚 (名古屋大学) 「学校文化と「神々の微笑モデル」ーテクノロジーと教授・学習文化とのコンフリクト」
- これまで行ってきた4つの研究をまとめて、テクノロジーの教育利用における中規模理論の構築をめざしたもの。
 - 導入されたテクノロジーが問題を引き起こした事例
 - 導入されたテクノロジーが問題を引き起こしているのに見過ごされた事例
 - 導入されたテクノロジーが問題を引き起こさず一定期間内に文化変容を起こした事例
 - 導入されたテクノロジーが問題を引き起こさずきわめて長いあいだに文化変容を起こした事例
- ぜひ読んでください！

教育工学選書での教育工学における質的研究の意義の解説

- 『教育工学選書 教育工学とはどんな学問か』日本教育工学会監修、坂元昴編著、岡本敏雄編著、永野和男編著、担当<第3章 近接領域からみた教育工学、3.3 教育学からみた教育工学>.ミネルヴァ書房 2012
- 次のスライドから

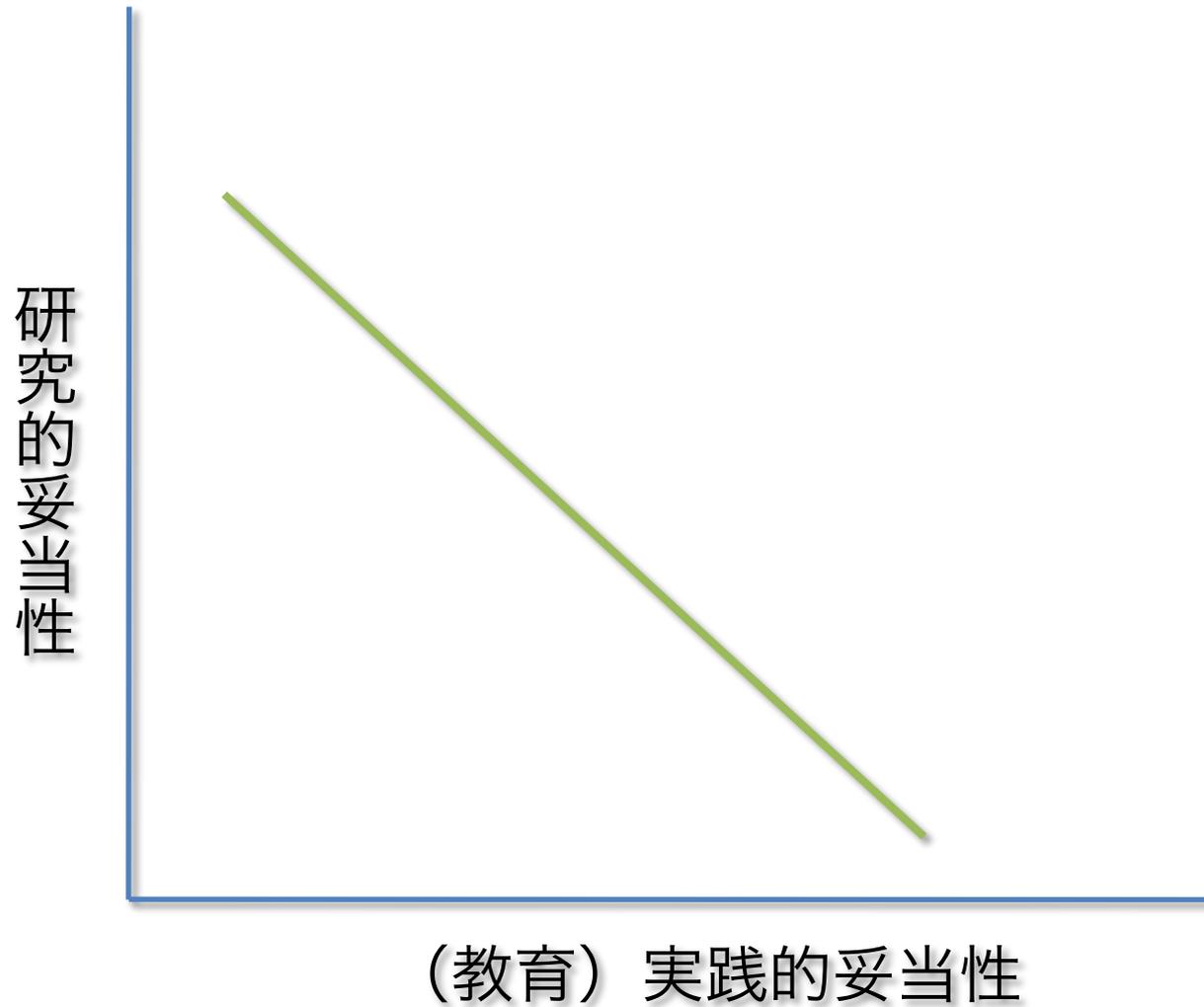


図1. 相反する従来の研究的妥当性と実践的妥当性
(柴田好章による概念化とモデル化)

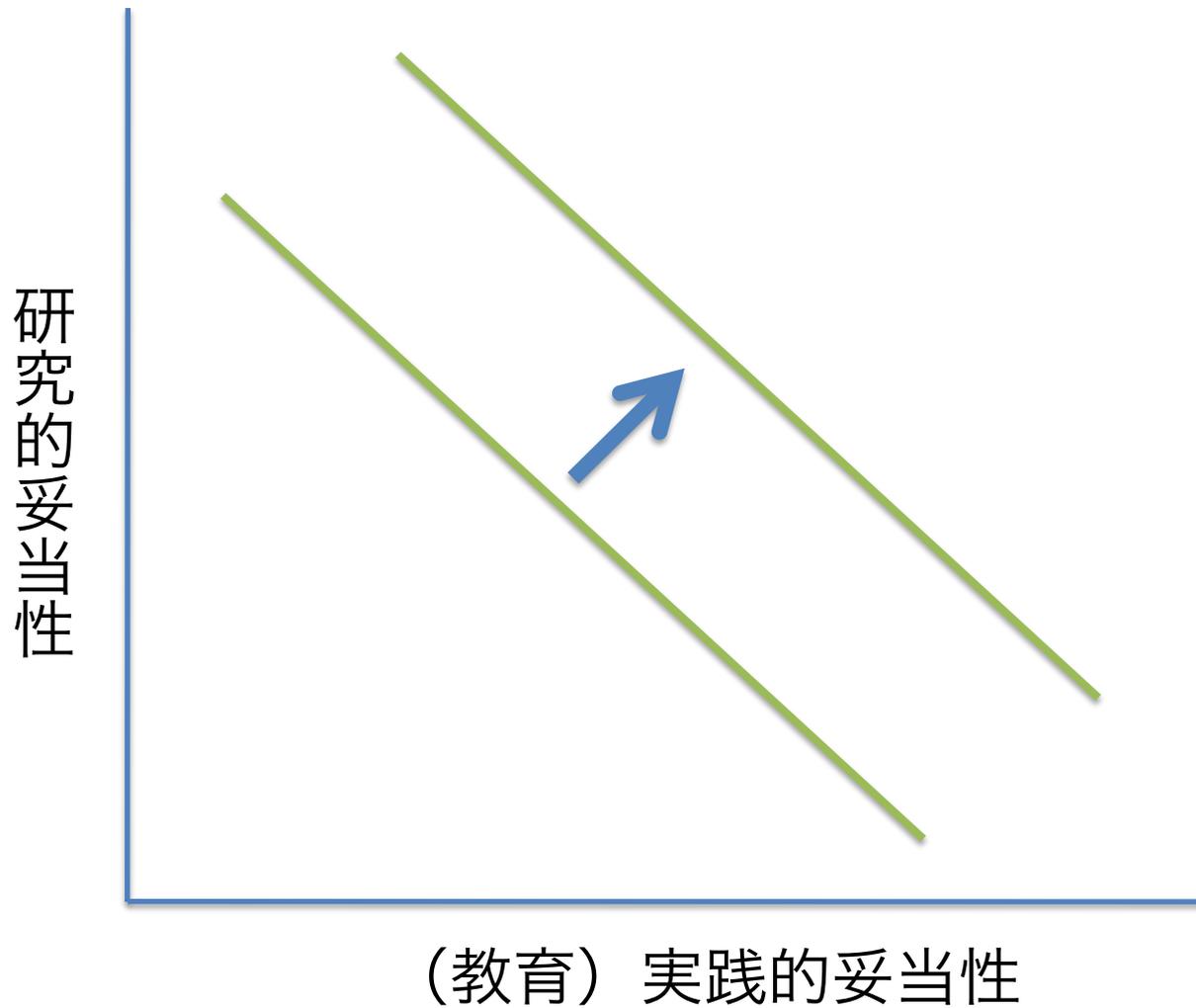


図2. 研究的妥当性と実践的妥当性をともに高める

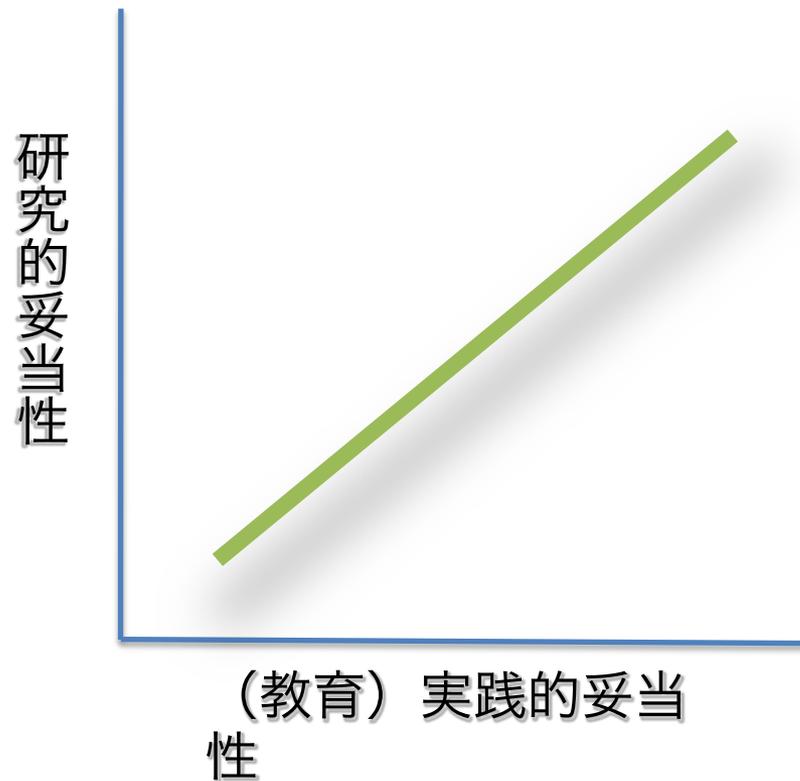


図3. 質的研究での研究的妥当性と実践的妥当性

質的研究に関連した科研

- 1990-1991（代表：永野和男）
 - 教育学の学術的基礎づけに関する総合的研究
- 1993-1994
 - 学校教育におけるコンピュータ利用を対象としたエスノメソドロジカルな研究手法の開発
- 1996-1998
 - 学校教育におけるコンピュータ利用の特質,問題,課題の解明を目的とする質的観察研究
- 1999-2001
 - 学校教育におけるインターネット利用の問題と課題の解明を目的とする質的観察研究
- 2000-2001（代表：岡本敏雄）
 - Post Modern Ageにおける教育工学研究の体系化に関する総合的研究
- 2002-2004
 - 教育テクノロジーと学校文化の間のコンフリクトと相互作用に関する質的研究
- 2008-2010
 - 教育テクノロジー(視聴覚教育,教育学)を専門とする教師のライフ・ヒストリー研究
- 2011-2014
 - 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法の共有の研究
- 2014-2017
 - 教育研究のための質的研究方法論としての授業研究の再構造化の試みとその課題の解明

そして質的データ分析手法“SCAT”を開発

- SCAT = Steps for Coding and Theorization
- 質的データとは質的研究で使われるインタビュー記録や観察記録などの言語データ
- 次のような特長
 - 明示的で段階的な分析手続き
 - 比較的小規模のデータに適用可能
 - 初学者にもきわめて着手しやすい
- そのため量的研究を基盤とする研究者でも使いやすい
- その研究タイトルや採録された学術誌の名称から分かる専門領域
 - 教育社会学、学校経営学、教育情報学、教育工学、心理学、臨床心理学、養護教育学、幼児教育学、企業内教育研究、医学、精神医学、歯学、歯科衛生学、医学教育学、歯学教育学、看護学、看護教育研究、薬学、薬学教育研究、国際保健研究、保育学、介護福祉学、第二言語教育研究、日本語教育研究、社会言語学、中国語教育学、読書研究、環境教育学、理科教育学、数学教育学、音楽教育学、キャリア研究、行政学、法学教育研究、経営学、商学、スポーツ科学、舞踊学、ソフトウェア工学、土木工学など、あらゆる領域

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/> 2019/3/15



SCAT のその後

- タイ、シンガポール、ベトナムでのWSを含む 100 回以上のセミナー・ワークショップを開催
 - 2014.7.3 タイ国 Krabi で60 人の医師に WS
 - 2015.2.5 シンガポールでの APMECで WS
 - 2017.8.6-7 ホーチミン市医科大学 で 77 人の医学部教員と医師に WS
 - 2018.8.15-16 ホーチミン市医科大学 で 80 人の医学部教員と医師に WS
- SCATの論文 2 本の名大機関リポジトリからの2017年9月から11月のそれぞれ 1ヶ月間のダウンロード数
 - 大谷(2008) 9月 841 10月 832 11月 942
 - 大谷(2011) 9月 1,294 10月 1,262 11月 1,094
- 2017年11月22日から 2018年11月22日までの名大機関リポジトリ全体の文献の1年間の閲覧数ランキングでは
 - 大谷(2008)は3,351件で 1位, 大谷(2011)は1,425件で 5位
- SCATはこれまであらゆる領域の600以上の研究で使用されている
 - 学部卒業論文, 博士論文26、修士論文36、医学国際学術誌英文論文11本 (スライド→)

SCATが用いられた医学国際学術誌の英文論文

1. Noriyuki Takahashi, Muneyoshi Aomatsu, Takuya Saiki, [Takashi Otani](#), Nobutaro Ban (2018) Listen to the outpatient: qualitative explanatory study on medical students' recognition of outpatients' narratives in combined ambulatory clerkship and peer role-play. *BMC Medical Education*. 18:229
2. Ryuichi Ohta, Daisuke Son.(2018).What do medical residents learn on a rural Japanese island? *Journal of Rural Medicine*, 13(1): 11–17.
3. Ryuichi Ohta, Kaneko Makoto .(2017). Effects of practicing in remote Japanese islands on physicians' control of negative emotions: A qualitative study. *Journal of Rural Medicine*. 12(2)
4. Yukiko Nagatani, Rintaro Imafuku, Toshinobu Takemoto, Tadayuki Waki, Taiji Obayashi, and Tetsuji Ogawa.(2017) .Dental hygienists' perceptions of professionalism are multidimensional and context-dependent: a qualitative study in Japan. *BMC Medical Education*. 17:267.
5. Masayo Kojima, Takeo Nakayama, [Takashi Otani](#), et.al. (2017).Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan. *Modern Rheumatology*. 【Original Article】 (25 Jan 2017)
6. Yoko Hirayama, Masato Matsushima, [Takashi Otani](#).(2017). Japanese citizens' attitude toward end-of-life care and advance directives:a qualitative study. *Journal of General and Family Medicine*. 【Original Article】
7. Tomotaka Kato, Seiichi Sugiyama, Michiko Makino, Toru Naito.(2016)A qualitative study on the background of long-term maintenance patients at a private Japanese dental clinic. *BMC Oral Health*
8. Aya Goto, Rima E Rudd, Alden Y Lai, Kazuki Yoshida, Yuu Suzuki, Donald D Halstead, Hiromi Yoshida-Komiya and Michael R Reich. (2014). Leveraging public health nurses for disaster risk communication in Fukushima City: a qualitative analysis of nurses' written records of parenting counseling and peer discussions. *BMC Health Services Research* 2014, 14:129
9. Sayaka Saito, Kei Mukohara, Yasushi Miyata.(2014) Chronological Changes in Japanese Physicians' Attitude and Behavior Concerning Relationships with Pharmaceutical Representatives: A Qualitative Study. *PLoS ONE* 9(9): e106586.
10. Muneyoshi Aomatsu, Takashi [Otani](#), Ai Tanaka, Nobutaro Jan Ban, van Dalen.(2013) Medical Students' and Residents' Conceptual Structure of Empathy: a Qualitative Study. *Education for Health*. 26(1)
11. Takami Maeno, Ayumi Takayashiki, Tokie Anme, Eriko Tohno, Akira Hara (2013) Japanese students' perception of their learning from an interprofessional education program: a qualitative study. *International Journal of Medical Education*. Vol.4. 9-17

SCATはプライマリケア領域（初期医療，家庭医療等）の研究では日本で最も多く使われている手法

Kaneko et al.(2018)によれば，日本のプライマリケア領域の質的研究とMMR(Mixed Method Research)で最も多く使われているのはSCAT!

Kaneko et al. *Asia Pac Fam Med* (2018) 17:11
<https://doi.org/10.1186/s12930-018-0048-8>

Asia Pacific Family Medicine

RESEARCH

Open Access



An analysis of qualitative and mixed methods abstracts from Japanese, UK and US primary care conferences

Makoto Kaneko^{1,2*} , Takuya Aoki³, Ryuichi Ohta⁴, Machiko Inoue^{1,2} and Rakesh N. Modi^{5,6,7}

そんなこんなで医療系で忙しくなった上 2015年からはさらに

医療における質的研究のためのプロトコル作成セミナー・ワークショップ

一質的臨床研究、質的医療専門職教育研究(医学教育研究、歯学教育研究、看護学教育研究、薬学教育研究など)を実施して論文執筆をめざすために一

も実施...



大谷の医療関係の著書・論文等（抜粋）



- Noriyuki Takahashi, Muneyoshi Aomatsu, Takuya Saiki, **Takashi Otani**, , Nobutaro Ban (2018) Listen to the outpatient: qualitative explanatory study on medical students' recognition of outpatients' narratives in combined ambulatory clerkship and peer role-play. *BMC Medical Education*. 18:229
- Masayo Kojima, Takeo Nakayama, **Takashi Otani**, et.al. (2017). Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan. *Modern Rheumatology*. 【Original Article】 (25 Jan 2017)
- Yoko Hirayama **Takashi Otani**, Masato Matsushima, (2017). Japanese citizens' attitude toward end-of-life care and advance directives: a qualitative study. *Journal of General and Family Medicine*. 【Original Article】
- 大谷 尚(2016) 質的研究とは何か -その意義と方法-. 日本歯科医師会雑誌 Vol.68 No.12
- 青松棟吉・大谷尚・西城卓也(2014)医学教育研究における研究倫理：座談会.医学教育 第45巻・第3号. 2-20
- 大谷 尚(2013)医療コミュニケーションへのアプローチとしての質的研究手法の機能と意義『これからの医療コミュニケーションに向けて』II-2. 篠原出版
- 増永悦子, 大谷尚(2013)がん患者遺族ボランティアによる語りの分析 -緩和ケア病棟でボランティアをする意味の解明, 日本緩和医療学会誌
- Aomatsu, **Otani**, Tanaka, Ban, van Dalen.(2013) Medical Students' and Residents' Conceptual Structure of Empathy: a Qualitative Study. *Education for Health*. 26(1), 4-8.
- 藤崎和彦, 田川まさみ, 西城卓也, 井内康輝, 錦織 宏, 渡邊洋子, 大谷 尚, 守屋利佳, 吉岡俊正, 吉田素文, 鈴木康之(2012)「日本医学教育学会認定医学教育専門家資格制度創設への提言」医学教育 第43巻・第3号, Vol.43, No. pp.221-231
- Takuya Saiki, Kei Mukohara, **Takashi Otani**, Nobutaro Ban (2011) Can Japanese students embrace learner-centred methods for teaching medical interviewing skills?. *Medical Teacher: International Journal of Medical Education*, 33(2) 69-74
- 平山陽子・大谷 尚(2010) 終末期医療と事前指示書に対する地域住民の意識について.第1回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2010.6.27
- 大谷 尚(2010) 6年制薬学教育におけるコミュニケーション教育に必要な質的アプローチと教育学的知見.日本薬学会第30回年会3/28-30
- 高木彰子, 大谷 尚, 勝野順子, 白神誠, 井手口直子(2010)「在宅医療に参入した薬剤師のキャリア開発に関する質的研究」日本薬学会第30回年会3/28-30
- 大谷 尚 (2009)「医学教育修士プログラムについて-トロント大学の医学教育学修士課程の紹介と教育学の立場からの検討-」特集/次世代の医学教育者の育成に向けて.医学教育. vol.40 No.2. 255-258
- Nishigori, **Otani**, Plint, Uchino, Ban (2008) I came, I saw, I reflected: a qualitative study into learning outcomes of international electives for Japanese and British medical students, *Medical Teacher: International Journal of Medical Education*, 2009; 31(5), 196-201
- 浜田・江崎・大谷・近藤・バティ(2008) OSTE : Objective structured teaching evaluations 指導医の教え方は評価できるのか. 第40回日本医学教育学会. 医学教育 第40巻 補冊11
- 奥谷・濱田・バティ・大谷 (2008)カナダにおける職種間教育の新しい流れ. 医学教育. 38(3) 181-185
- Mukohara, Ban, Sobue, Shimada, **Otani**, Yamada(2006), Follow the Patient: Process and Outcome Evaluation of Medical Students' Educational Experiences Accompanying Outpatients, *Medical Education*, 40.Blackwell Publishing, Oxford, UK, 156-165

医学・医療関係の委員等



- 2007年 4月-2009年3月
 - 長崎医療センター 臨床研修管理委員会委員
- 2007年12月-
 - 日本医学教育学会 医学教育マスターコース検討委員会委員 医学教育専門家育成検討委員会委員 (2011-) 同WGアドバイザー (2013-)
- 2008年 4月-2013年3月
 - 長崎大学「大学病院連携型高度医療人養成推進事業G P」委員
- 2008年 2月-
 - ホスピス聖霊 (名古屋聖霊病院緩和ケア病棟) 後援会代表
- 2009年12月-
 - 名古屋医療センター 臨床研修管理委員会委員
- 2014年 1月-
 - 長崎大学病院 臨床研修管理委員会委員

医療系大学・大学院での 非常勤講師等



- 2009年 - 現在
 - 東京慈恵会医科大学 「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」 指導委員
- 2011年 - 現在
 - 帝京平成大学 大学院薬学研究科 非常勤講師
- 2014年
 - 広島大学 大学院医歯薬保健学総合研究科 非常勤講師
- 2014年 - 現在
 - 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 非常勤講師
- 2014年 - 現在
 - 三重大学 大学院医学系研究科 非常勤講師

ところで日本にはこんなことばが

- 籠に乗る人かつぐ人，そのまた草鞋（わらじ）を作る人



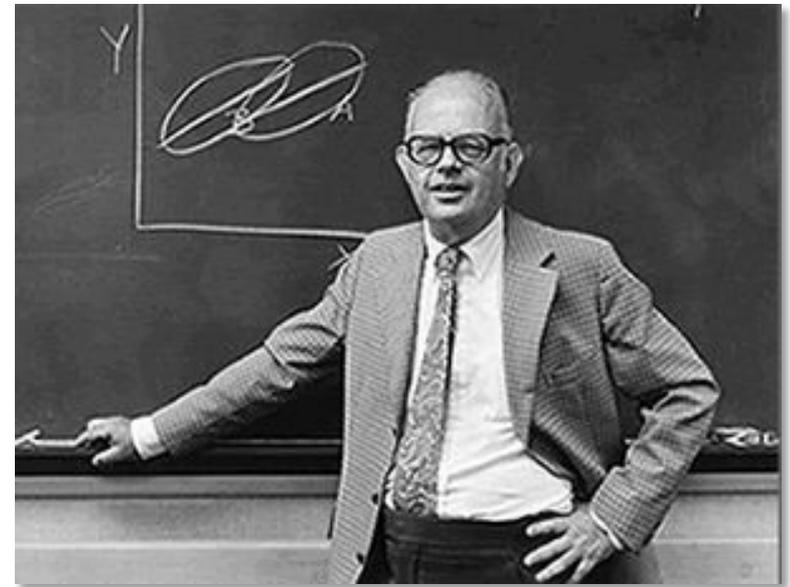
- 研究手法というのはこの草鞋みたいなもの
- SCATを作った大谷は「そのまた草鞋を作る人」



偉大な草鞋作り Lee Cronback 1916-

APA会長, AERA会長, スタンフォード大学教授

- 信頼性係数 Lee Cronback's α (クロンバックの α :)
 - これほど広く使われているものはない
 - 墓石に" α "と刻めば, 世界中の研究者が, 一目でクロンバックの墓と分かるのではないか
- ただしクロンバックは研究手法の専門家ではなかった
 - 適性処遇交互作用 Aptitude Treatment Interaction; ATIなどの概念を提唱した教育心理学研究者であり, 自分の研究を通して α を作った
- 研究手法は自身の研究を通してしか創れない.



<https://news.stanford.edu/>

2019/4/9

紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

以上の経験の相互の影響

- アップルコンピュータを創ったスティーブ・ジョブス
 - 「学生時代にカリグラフィ（能書法）をやったことが、後にアップルコンピュータのフォントの開発につながった」
- 大谷の場合
 - 素粒子物理学などへの興味 → 社会構成主義的・相互行為論的パラダイムの理解
 - ハイデggerを学んだこと → 解釈学的現象学的質的研究
 - 計量書誌学 bibliometrics → 授業逐語記録のコンピュータによる分析
 - プログラム学習やCAI(Computer Assisted Instruction)のスモールステップの原則 → SCATの4ステップ
 - 授業研究 → SCATというシーケンス分析の手法の開発
 - 教育工学会で量的・実証的研究者との質的研究に関する対話や議論 → 医療者に紹介していること
 - 教育実践研究の指導助言者としての長い経験 → 言語化
 - トロントで研究方法やその際の概念的・理論的枠組みの重要性を学んだこと → 質的研究方法論の探究
- そしてこんなことが . . .

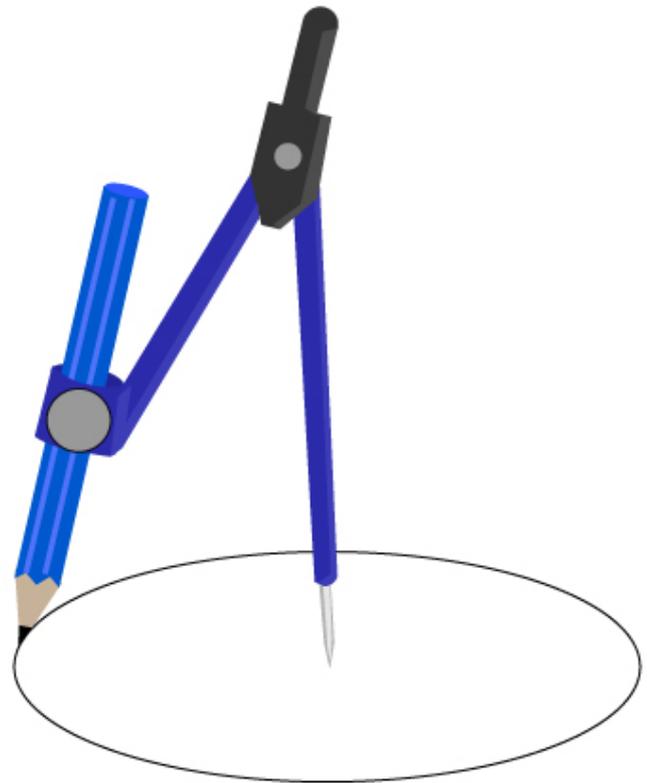
2019.1.25(金)最後の学部講義 「教育情報学講義」

- 最後に何をやるうかと考えた.
- そうだ「虚構の教材の論文」(大谷 1986)を読もう.
- 27年くらい読んでなかった.
- 2年前に坂本先生が着任したときに、大谷の論文の中であれがいちばん好きだと言ってくれたので長崎大学学術リポジトリからダウンロードして読んだ.
- これは録音を使った嘘の教材のこと。つまり教育テクノロジーを扱っているから「教育情報学講義にふさわしい」
- それに、大学に就職してすぐの論文を定年退職の年度の最後の授業で読むのは、なにかくるっと輪が閉じた感じがして、それはそれで、何か意味があるのではないか。 . . .

しかし今回読んでみて36年経って 初めて分かったことがある

- この論文では、「テクノロジー」という言葉を使っていないが、これは上述のようにまさにテクノロジーの教育利用の問題
- そして、目標にとらわれた評価がこのような教材を作らせるのであり、目標にとらわれない評価 goal free evaluation が重要であることを述べ、「OECD-CERI カリキュラム開発に関する国際セミナー」の報告書(文部省,1975)から、次を引用。
 - そのためには、「教授学習活動の目標が何であったにせよ、その活動によってひき起こされるすべての事象 (events)を観察し記述することが望ましい」
- 当時「質的研究」という言葉さえ知らなかったが、今これを読むと、これこそまさに質的研究そのものこと！
- テクノロジーの教育利用への問題意識とそのためのアプローチである質的研究への希求は、潜在的ながらすでにこの時に強く抱かれていたのだと再発見。

- くるっと輪がとじた感じ. . .
- 長い長い一週を回って出発点に戻って来られた感じ. . .
- いや, じつはずっと出発点にいたんだ, という懐かしい感じ. . .
- そして, 間違っていたなかつたんだ, という勝手な確信. . .



紀要退職記念論文の目次

1. 高校時代までの教育への問題意識
2. 学部学生時代の教育学に対する思いと恩師との出会い
3. 大学院学生時代の研究指導
4. 長崎大学時代の経験
5. 名古屋大学時代
6. 帰国後の質的研究方法論の研究への取り組み
7. 以上の経験の相互の影響
8. 結語:研究領域を超えた世界共通の研究言語としての質的研究

質的研究は研究領域を超えた世界 共通の研究言語

- それは量的研究が世界共通であるのと同じ
 - 医学や心理学の論文が世界で通用するのは、英語で書かれているだけでなく、量的研究という世界共通の研究言語を使っているから
- したがって世界の質的研究の水準を学び、共通言語で問題を扱い、共通言語で発表する必要がある
- そうすれば、外国の研究者と成果の交流と共有ができるだけでなく、全く異なる領域の研究者とも成果の交流と共有ができる

今回のライフストーリー研究(?), 自己エスノグラフィ(?)で分かったこと

- 必ずしも、最初にやろうと思っていたことを最後までやって来たわけではない。
- しかし最初に感じた疑問、最初に抱いた問題意識は一貫して続いている。
- だから表面的な形が変わることは問題ではない。
- しかも、以前に懸命にやったことは後でさまざまな別の形で生きる。
- したがって、その人の深奥にある問題意識の根源さえ枯れずに生き続けていれば、すべては継続し、影響しあい、発展する。
- そしてもうひとつ. . .

紀要のいつもの英文校閲者ミシェル・モローネ先生（名古屋外国語大学）から、まったくお返事がない！

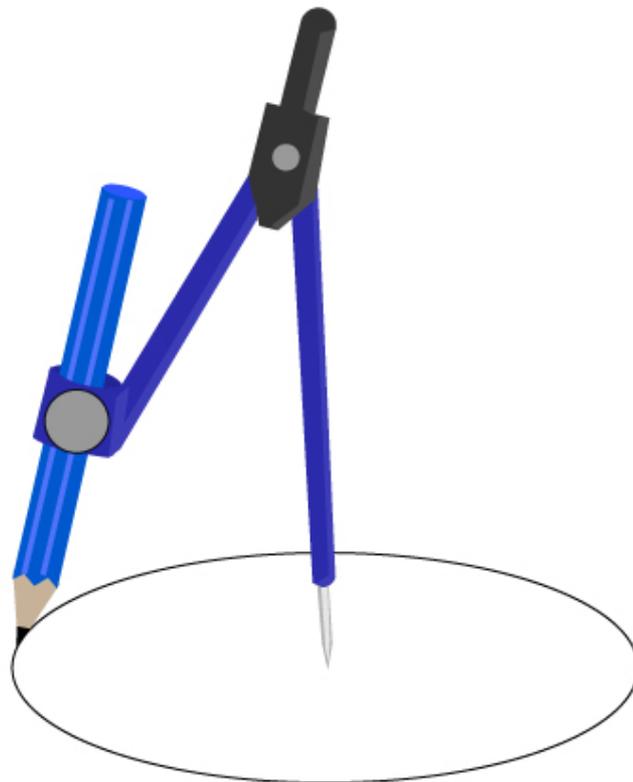
入稿締め切り直前に、なんと外国出張中でご不在と分かる！



そこで、今回の紀要の原稿のために、初めて出会ったときの年度をメールで確認した John Brine 氏に英文校閲をお願いすると、大変快く引き受けてくれ、夜中にやりとりして一晩で校閲を完了！



同上



同上

ここでも輪がくるっと...

だからこそすべての人に

Thank
you
so
much

著作権上の理由により画像の差し替えを行なっています

<https://www.freepik.com/free-photos-vectors/banner> 2019/07/08

Banner vector created

by katemangostar - www.freepik.com